

校内研究 小嘶

総合的な学習や探究型学習についての情報です。
校内研究の学びへの参考にしてください。



R7.06.25 2号

フィードバック 2 (前回からの続きです。)

2 フィードバックって何？

(3) どのようにフィードバックする。(具体例)

フィードバックによる教育効果は大きいです。そこで、無理しないで短時間で効果を上げるフィードバックのポイントを生成 AI に聞いてみましたので、参考にしてください。

ポイントは、「具体的な行動」+「承認」+「次につながる視点」を含めることがポイントだそうです。



事例 1: 口頭発表へのフィードバック(総合的な学習の時間)

フィードバック例: 「〇〇さんの発表は、身近な例を挙げていて、聞いている人にとっても分かりやすかったですよ。特に、声の大きさと速さが適切で、聞き取りやすかったです。さらによい発表となるために、発表の最後に質問時間を設けると、さらに聞いている人の理解が深まったかもしれません。次回は、『質問ありますか?』と一言付け加えてみましょう。」

ポイント: 「分かりやすい」「聞き取りやすい」といった具体的な行動を承認し賞賛した。続けて、次の発表で試せる具体的な行動(質問時間の確保)を提案した。生徒が自信を持って次の発表に臨めることを意識した。

事例 2: 新聞発表へのフィードバック(総合的な学習の時間)

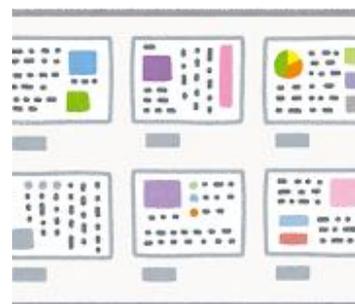
フィードバック例: 「〇〇さんの新聞は、見出しを 3 色で色分けしてはっきりを書かれていて、読者の目を引く工夫がされていました。図や写真も効果的に使われていて、整理されていました。欲を言えば、記事の根拠となるデータがもう少し詳しいと、より説得力が増したかもしれません。次回は、情報の出所を明記したり、具体的な数値を盛り込んだりすることを意識してみましょう。」

ポイント: 視覚的な具体的な工夫を認める。「説得力」という視点から改善点を提示し、具体的な行動(情報の出所の明記や数値の活用)を示した。情報の信頼性を高める視点を提案した。

事例 3: レポート発表へのフィードバック(総合的な学習の時間)

フィードバック例: 「〇〇さんのレポートは、独自の視点からテーマに切り込んでいて、大変興味深く読ませていただきました。特に、先行研究を複数引用している点は素晴らしいです。一方で、自分の考察と引用部分の区別が少しつきにくい箇所がありました。次回は、引用部分をカギ括弧でくるなど、引用ルールを徹底してみましょう。そうすると、〇〇さんのオリジナルの考察がより際立ちます。」

ポイント: 専門的な取り組みを評価する。不足しているアカデミックなルール(引用表記)の重要性を具体的に伝え、実践的な改善策を提示した。ユニークな視点とルールの遵守を応援した。



(4) フィードバックすることで生まれるものは(効果、成果)

生徒は「自分の考えが認められた」「頑張ったことが伝わった」と感じることで、発信すること・考えること・努力することに意義を感じ、意欲を持って取り組むようになります。

教員にとっても、生徒一人一人の内的な成長や考えに触れることで、より深い信頼関係の構築や指導へのヒントが得られます。個別最適化への指導ができるようになります。

つまり、フィードバックは“時間をかけずにできる、最大の教育投資”ともいえるのです。



3 最後に

先生方が、日々生徒に関わりポジティブな働きかけを続け、それらの共有(グリコ)があるからこそ、生徒たちは安心して探究し、自分を表現することができます。そして、これらの働きかけの「最後の一押し」として、フィードバックを添えることで、教育効果は飛躍的に高まります。

「生徒のがんばりに、先生のまなざしと一言。」これが、教育のゴールを支える力だと考えます。教員全員が『総合的な学習の時間』や『キャリア・パスポート』に、丁寧にフィードバックしたら、生徒たちは様々な活動で自分の存在・表現(プレゼンテーション)を認めてもらうことで、目覚ましい成長を遂げるはずで、最後の押しえとして、適切なフィードバックを得られることで、以下の力が高まります。

学びに向かう意欲の向上：自分の努力が認められ、次の目標が明確になることで、知的好奇心や学習意欲が高まります。

自己肯定感の醸成：自分の良い点や成長が具体的に伝えられることで、自信を持ち、自己効力感が高まります。

主体性の育成：改善点を自ら考え、具体的な行動に移すことで、問題解決能力や自律性が育まれます。

非認知能力の向上：意欲、粘り強さ、コミュニケーション能力、目標設定能力など、将来にわたって必要となる多様な非認知能力が総合的に伸びます。

自己理解の深化：『キャリア・パスポート』へのフィードバックは、生徒が自身の興味・関心、強み、課題をより深く理解し、将来の進路選択に繋がる自己認識を深める手助けとなります。

気づかれた先生もいらっしやるとか思います。これらの項目は、非認知能力です。非認知能力の育成は、生徒の学力向上だけでなく、予測困難な時代を生き抜くための総合的な力を育む上で不可欠です。現指導要領で示された概念かもしれません。学習指導要領は、20年30年後の社会で必要とされる能力を培うために、学識経験者等が出した指針を元に作られています。

学習指導要領で求められる能力やスキルは、どのようなものか、なぜ必要か、どのように指導すると効果が上がるかなどは、再度、各自でも研鑽を積んでください。

